

佐野静代：琵琶湖岸のヨシ帯面積の変化に関する歴史的情報の分析

研究の概要

琵琶湖岸の水辺環境の変遷について、これまで空中写真・地形図を用いた景観分析・復原研究が行われてきたが、その遡及可能な時期は空中写真が昭和 20 年、地形図でも明治 26 年までに限られている。しかし滋賀県には近世の村絵図が多数残されており、このような歴史資料を活用した水辺の環境・景観分析の可能性も検討されるべきと考える。そこで、本研究では水辺の景観変化の指標としてヨシ帯に注目し、前近代の絵図・文書等の歴史資料から当時のヨシ帯の面積を定量的にとらえる方法を考案する。

具体的には、これまで研究の進んでいない旧彦根藩領各村の「耕地絵図」を主な分析対象とし、近世中期（18 世紀）と近代初頭（19 世紀）の 2 時期における琵琶湖岸のヨシ帯の分布と面積を復原することを試みる。明治期以前に遡り、現在までトータルで 300 年間に及ぶ湖岸の景観・環境変化を定量的に把握できるはじめての資料となるはずである。この結果は GIS での研究にもいかすことができるものとする。旧彦根藩領に含まれる湖岸域として、彦根市・米原市・長浜市が対象となるが、まず初年度は彦根市分について作業を開始する。

作業内容

滋賀県立図書館と地元自治会所蔵の「耕地絵図」「地引絵図」等について所在調査の上、撮影・現像を行う。各絵図に記載された土地一筆単位の情報を読解し、ベースマップ上に土地利用を復原する。

→一定範囲の復原が完了した後で、GIS への活用方法について検討が必要となる。

今年度の予算規模

1. 絵図の撮影・現像料として 30 カ村分、約 35 万円が必要。
2. GIS 化について専門家と要相談、その招聘旅費＋謝金で約 10 万円必要。
→ただし実際の作業は別途業者への委託となるはずなので、次年度以降その予算が必要となる可能性あり。
3. 上記に関して、東京出張一回分、5 万円。